

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が565例(男性291例(10歳代27例, 20歳代68例, 30歳代41例, 40歳代61例, 50歳代33例, 60歳代19例, 70歳代20例, 80歳代9例, 90歳代1例, 年齢非公開12例), 女性261例(10歳代28例, 20歳代58例, 30歳代30例, 40歳代37例, 50歳代28例, 60歳代31例, 70歳代25例, 80歳代14例, 90歳代4例, 年齢非公開6例), 性別及び年齢非公開13例)あり, 本年の累積報告数は7,190例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **腸管出血性大腸菌感染症**の報告が1例(50歳代女性)ありました。本年2例目の報告となります。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- ・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が1例(80歳代男性)(第19週追加報告分)あり, 本年の累積報告数は11例となりました。
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が3例(70歳代男性2例及び10歳未満女性1例)(第19週追加報告分1例含む)ありました。ともに感染地域は国内です。本年の累積報告数は8例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が2例(40歳代男性及び20歳代女性)ありました。本年の累積報告数は22例となりました。
- ・ **播種性クリプトコックス症**の報告が1例(80歳代男性)ありました。本年の累積報告数は3例となりました。
- ・ **RSウイルス感染症**の本市の定点当たり報告数は2. 49(107例)となり, 前週の1. 21(52例)から倍増しました。全国でも前週の1. 00から1. 82に増加しました。本市は第13週から, 全国は第8週から過去5年平均値を上回って推移しています。全国で最も多く報告されているのは奈良で9. 76となっており, また大阪府で4. 13, 北陸地方の石川県, 福井県, 富山県でそれぞれ6. 72, 5. 48, 4. 79となっています。京都市でも急速に増加しており, 近隣府県でも多く報告されていることから, 今後の発生動向に注意が必要です。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

2021年第20週, 本市では腸管出血性大腸菌(enterohemorrhagic Escherichia coli, EHEC)感染症が1例報告され, 本年の累計報告数は2例になりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 2例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 91例(肺結核 32例, その他結核 34例, 潜在性結核感染者 25例)うち喀痰塗抹陽性 12例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 565例**【1月以降の累積報告数 7,190例】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 8例】
- ・ 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 22例】
- ・ 五類:播種性クリプトコックス症1例【1月以降の累積報告数 3例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

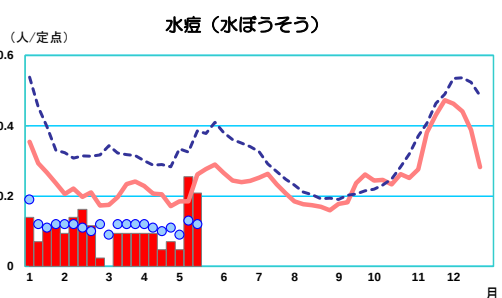
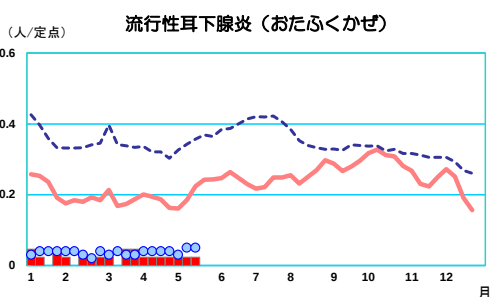
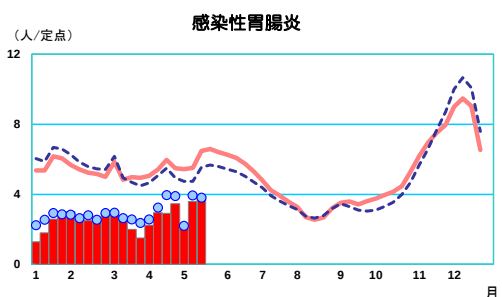
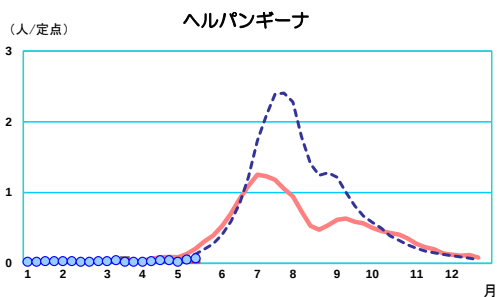
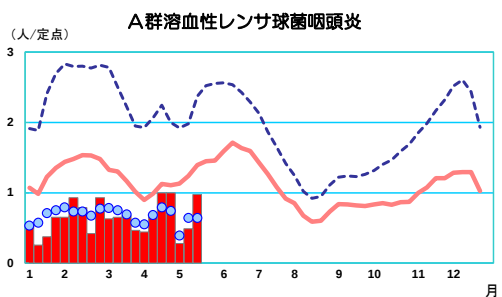
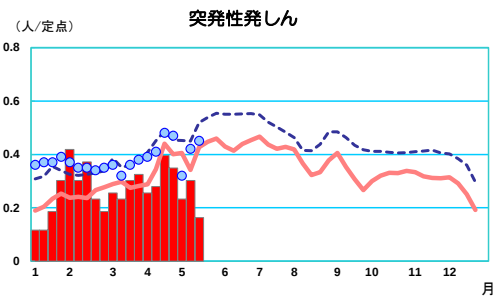
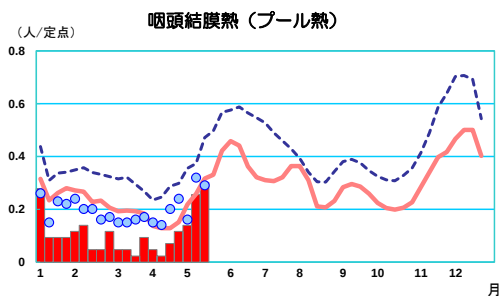
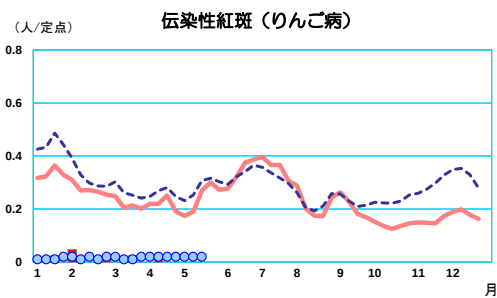
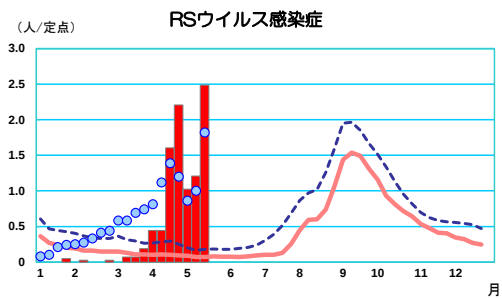
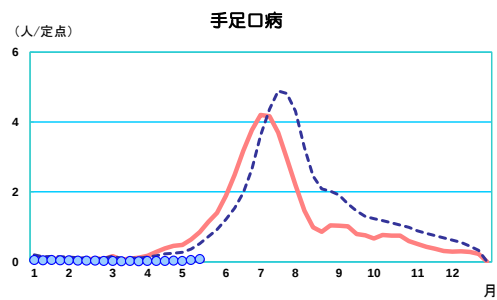
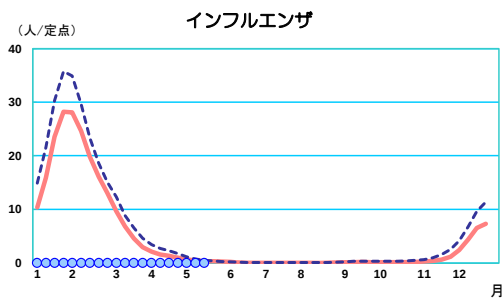
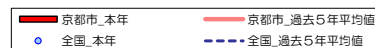
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0. 00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3. 88	167
	② RSウイルス感染症	2. 49	107
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 98	42
	④ 咽頭結膜熱	0. 30	13
	⑤ 水痘	0. 21	9
眼科	流行性角結膜炎	0. 10	1

【次ページ以降の主な内容】

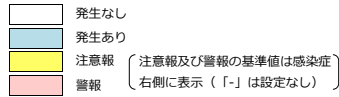
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年5月27日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

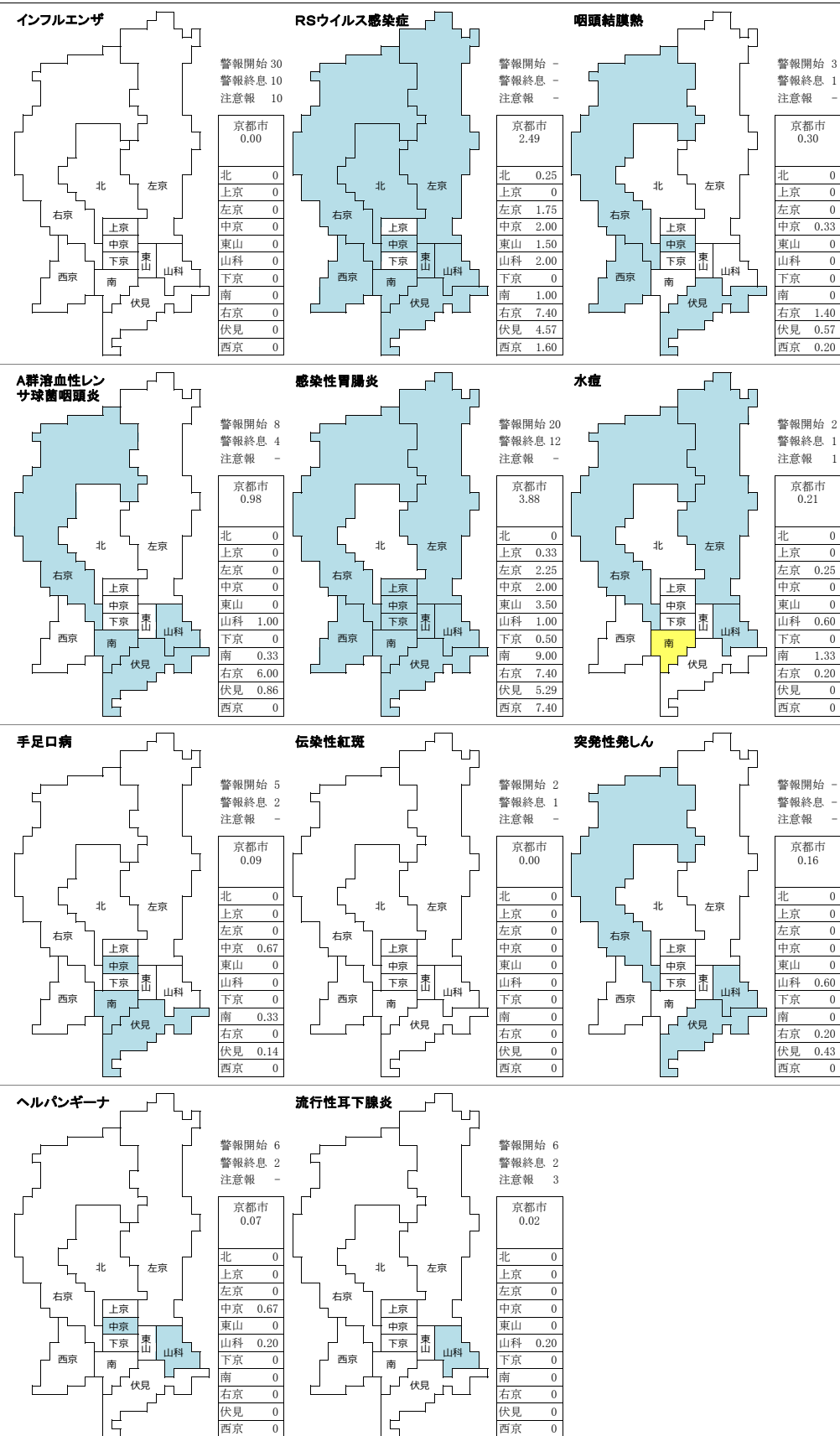
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第20週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



2021年第20週, 本市では腸管出血性大腸菌(enterohemorrhagic *Escherichia coli*, EHEC) 感染症が1例報告され, 本年の累計報告数は2例になりました。本市におけるEHEC感染症年間報告数の推移を見ると, 2010年以降は年間50例以下で推移しており, 2017年から2019年はやや増加していましたが, 2020年は22例と過去20年で最も少ない年になりました(図1)。

本市と全国における疫学週ごとの報告数の過去10年間平均値を比較すると, どちらも増減傾向はおおむね一致しており, 7月～8月の気温が高い夏場に多く報告されています(図2)。

大腸菌はヒトを含む動物の腸管には普通に存在する細菌で, 通常は病気を起こしません。しかし, 病気の原因となる遺伝子を持つ病原性大腸菌もあり, そのひとつがEHECです。EHECは, 赤痢菌のつくる志賀毒素と同じものをつくるため, 志賀毒素産生性大腸菌(STEC)と呼ばれたり, 志賀毒素はペロ毒素ともいうので, ペロ毒素産生性大腸菌(VTEC)と言ったりもします。

細菌に結合する抗体の種類で分類したものを血清型と言います。細菌の細胞壁から出ている糖の構造は菌によって少しずつ違うので, その違いによって結合する抗体が異なります。血清型のひとつであるO型別はこれを利用して, 大腸菌では170種類以上が知られています(図3, *1)。同じ発生源から感染した患者では同じ血清型のEHECが検出されるので, 集団発生の際には発生源を調べるために利用されています。

ところで, EHECと言えばO157と思われることも多いようですが, O型別がO157である大腸菌の全てが毒素を作るわけではないので, O157抗原を持つ大腸菌全てがEHECではありませんし, 逆にEHECにも様々なO型別のものがあります。

本市で報告されたEHEC感染症の年ごとのO型別を見ると, 例年, O157が過半数を占めることが多いですが(図1), 2008年のO26や2019年のO103など, O157以外が比較的多い年も散見されます。これらは集団発生によるもので, 両年だけでなく, 2003年と2009年にもO157による集団発生が保育園で起こっています。

EHECは他の大腸菌に比べて酸に強く, 胃酸の中でも生き残りやすいと言われています。そのため, EHEC感染症を起こすのに必要な菌数は50個程度ととても少なく, 患者の家族や医療関係者に二次感染を起こすことがあるのが特徴です。EHECに感染すると, 3～5日後に激しい腹痛のある水様性下痢を起こします。その後, 毒素によって腸管表面の細胞が死んでしまうため出血を起こし, 最終的には便がほとんどなく, 血液そのものが出てくるような状態になることもあります。しかし一方で, 感染しても全く症状が出ない人もいます。

下痢を起こした人の一部は, 2週間以内に急性腎不全になる場合があります。毒素が腸管から血流に入ること, 微小な血栓が多数できて毛細血管が狭くなり, そこを通る赤血球が物理的に壊れてしまうと溶血を起こします。同時に, 腎臓の細胞はこの毒素に敏感なので, 腎臓の機能が落ちて尿が作れなくなり, 尿毒症になります(*2)。この状態を溶血性尿毒症症候群(HUS)といい, 子供と高齢者に多く起こります。HUSは後遺症が残ることもある重篤な合併症で, 本市でも集団発生の際には死亡例が見られます。

EHECは環境中や動物の腸管に広く存在しているので, 根絶することは困難です。そのため, 食品の洗浄や加熱などの衛生管理をしっかり行うことが重要です。EHECは75℃で1分以上の加熱で死滅するため, 特に食肉などは食材の中心までしっかりと加熱してから食べましょう。

○厚生労働省「腸管出血性大腸菌O157等による食中毒」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/daichoukin.html

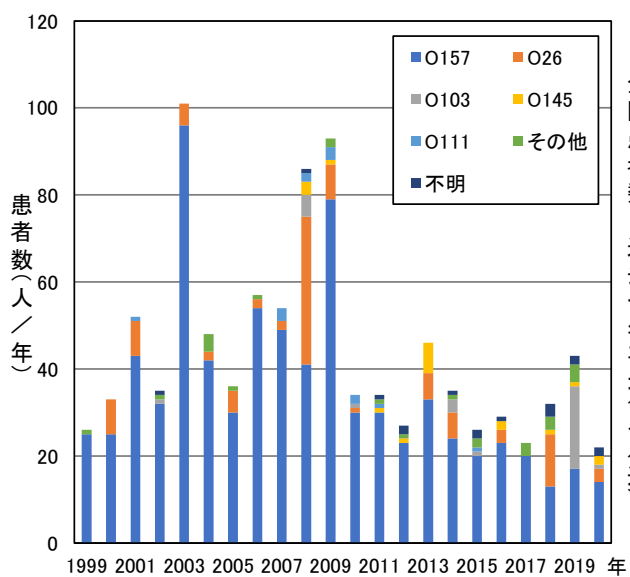


図1. 本市のEHEC感染症報告数の推移(O型別) #

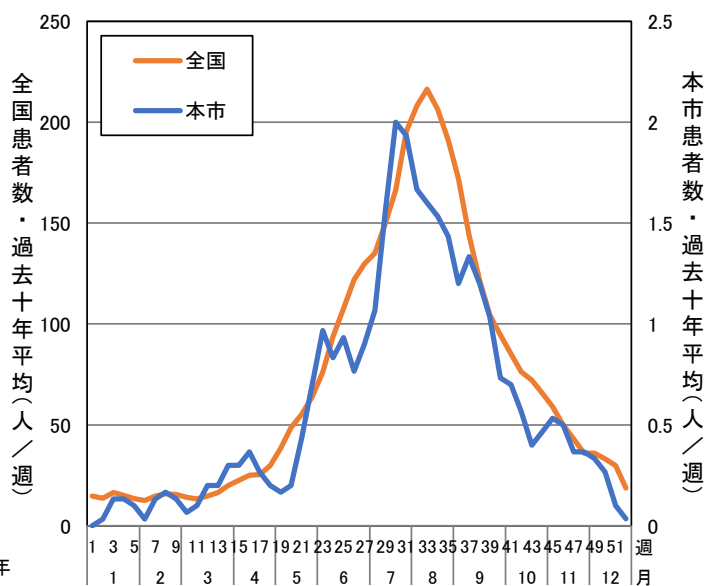


図2. 本市と全国のEHEC感染症の週別報告数

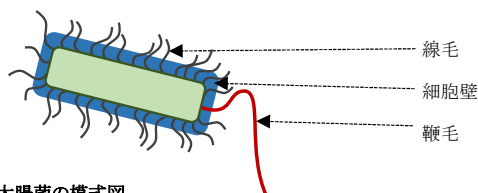


図3. 大腸菌の模式図

O型別は細胞壁から出ている糖鎖(リポ多糖)の抗原性で分類している。サルモネラではH型別も同時に利用されるが, こちらは鞭毛の抗原性による。

【参考文献・注釈】(2021年5月26日閲覧。)

本文は以下のウェブサイトを参考に作成。

○国立感染症研究所「腸管出血性大腸菌感染症とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>

○厚生労働省「腸管出血性大腸菌Q&A」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177609.html>

(*1) 国立感染症研究所「O抗原とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/ehc-m/2057-bac1/disease/714-ehc-bac1-o-antigen.html>

(*2) 「HUS・aHUSの病態と臨床像」(日腎会誌, 2014; 56(7): 1052-1057.

https://jsn.or.jp/journal/document/56_7/1052-1057.pdf

(#) 1999年は1月～3月を除く。

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第20週

疾病,行政区別報告数

2021年5月17日～2021年5月23日

データ入手日:2021年5月27日

	インフル エンザ（※1）	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1					
左京	-	7	-	-	9	1	-	-	-	-	-	-	-					
中京	-	6	1	-	6	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	3	-	-	7	-	-	-	-	-	-							
山科	-	10	-	5	5	3	-	-	3	1	1	-	-					
下京	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-							
南	-	3	-	1	27	4	1	-	-	-	-							
右京	-	37	7	30	37	1	-	-	1	-	-	-	-					
伏見	-	32	4	6	37	-	1	-	3	-	-	-	-					
西京	-	8	1	-	37	-	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	107	13	42	167	9	4	-	7	3	1	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフル エンザ（※1）	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	1.00					
左京	-	1.75	-	-	2.25	0.25	-	-	-	-	-	-	-					
中京	-	2.00	0.33	-	2.00	-	0.67	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1.50	-	-	3.50	-	-	-	-	-	-							
山科	-	2.00	-	1.00	1.00	0.60	-	-	0.60	0.20	0.20	-	-					
下京	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-							
南	-	1.00	-	0.33	9.00	1.33	0.33	-	-	-	-							
右京	-	7.40	1.40	6.00	7.40	0.20	-	-	0.20	-	-	-	-					
伏見	-	4.57	0.57	0.86	5.29	-	0.14	-	0.43	-	-	-	-					
西京	-	1.60	0.20	-	7.40	-	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	2.49	0.30	0.98	3.88	0.21	0.09	-	0.16	0.07	0.02	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第20週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年5月17日～2021年5月23日

データ入手日:2021年5月27日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	107	2	15	42	33	12	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽 頭 結 膜 熱		13	-	2	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42	-	1	9	14	3	6	3	-	2	-	-	2	-	2						
感染性胃腸炎		167	1	11	32	30	14	16	12	12	2	7	3	11	4	12						
水 痘		9	-	-	4	-	-	1	-	1	-	1	-	2	-	-						
手 足 口 病		4	-	-	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝 染 性 紅 斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		7	1	1	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		3	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ ^{※1)}	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症	年齢3	2.49	0.05	0.35	0.98	0.77	0.28	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.30	－	0.05	0.26	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.98	－	0.02	0.21	0.33	0.07	0.14	0.07	－	0.05	－	－	0.05	－	0.05						
感染性胃腸炎		3.88	0.02	0.26	0.74	0.70	0.33	0.37	0.28	0.28	0.05	0.16	0.07	0.26	0.09	0.28						
水 痘		0.21	－	－	0.09	－	－	0.02	－	0.02	－	0.02	－	0.05	－	－						
手 足 口 病		0.09	－	－	0.05	0.02	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.16	0.02	0.02	0.07	0.02	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.07	－	－	0.05	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.02	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		0.10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.10	－	－	－	－
細菌性髄膜炎 ^{※2)}	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			
クラミジア肺炎 ^{※3)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			
感染性胃腸炎 ^{※4)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第20週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年5月27日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症		19	69	95	44	52	107
咽 頭 結 膜 熱		1	3	5	6	11	13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		28	43	43	12	21	42
感染性胃腸炎		127	125	149	89	154	167
水 痘		4	2	3	2	11	9
手 足 口 病		－	2	－	1	3	4
伝 染 性 紅 斑		1	－	－	－	－	－
突発性発しん		12	17	15	10	13	7
ヘルパンギーナ		2	3	－	1	2	3
流行性耳下腺炎		1	1	1	1	1	1
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		1	－	3	－	1	1
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		196	265	314	166	269	354

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症		0.44	1.60	2.21	1.02	1.21	2.49
咽 頭 結 膜 熱		0.02	0.07	0.12	0.14	0.26	0.30
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.65	1.00	1.00	0.28	0.49	0.98
感染性胃腸炎		2.95	2.91	3.47	2.07	3.58	3.88
水 痘		0.09	0.05	0.07	0.05	0.26	0.21
手 足 口 病		－	0.05	－	0.02	0.07	0.09
伝 染 性 紅 斑		0.02	－	－	－	－	－
突発性発しん		0.28	0.40	0.35	0.23	0.30	0.16
ヘルパンギーナ		0.05	0.07	－	0.02	0.05	0.07
流行性耳下腺炎		0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		0.10	－	0.30	－	0.10	0.10
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		4.63	6.16	7.53	3.86	6.33	8.31

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。